

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 25 年 5 月 23 日 (2013.5.23)

【公表番号】特表 2010-511017 (P2010-511017A)

【公表日】平成 22 年 4 月 8 日 (2010.4.8)

【年通号数】公開・登録公報 2010-014

【出願番号】特願 2009-538722 (P2009-538722)

【国際特許分類】

C 0 7 F 15/00 (2006.01)

C 0 7 C 233/25 (2006.01)

C 0 7 C 233/75 (2006.01)

C 0 7 D 233/61 (2006.01)

B 0 1 J 31/22 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 F 15/00 C S P A

C 0 7 C 233/25

C 0 7 C 233/75

C 0 7 D 233/61 1 0 3

B 0 1 J 31/22 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 25 年 4 月 2 日 (2013.4.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

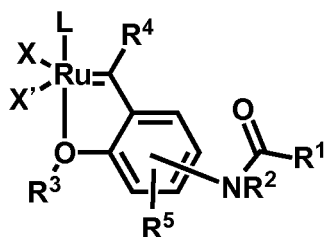
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

触媒作用のための式 (I)

【化 1】



(I)

[式中、

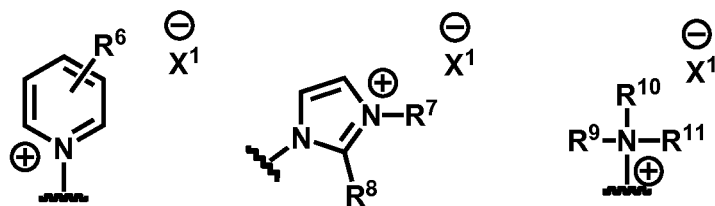
L は中性配位子であり、

X、X' は陰イオン配位子であり、

R¹および R²はそれぞれ独立して、C₁ ~ C₆ ペルハロゲン化アルキル、アルデヒド、ケトン、エステル、アミド、ニトリル、場合により置換されるアリール、アルキルピリジニウム、ペルハロゲン化アルキルピリジニウムもしくは場合により置換される C₅ ~ C₆ シクロヘキシル、C_nH_{2n}Y もしくは C_nF_{2n}Y 基 [式中、n は 1 ~ 6 からなり、イオンマーカ-

Y は次式：

【化 2】

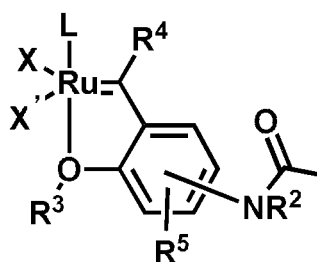


からなる群から選択される]であり、

R²は水素またはC₁～C₆アルキルでもあり得、

化合物が式(I)である場合は、R¹が式(Ibis)

【化 3】



(Ibis)

の基であり得、

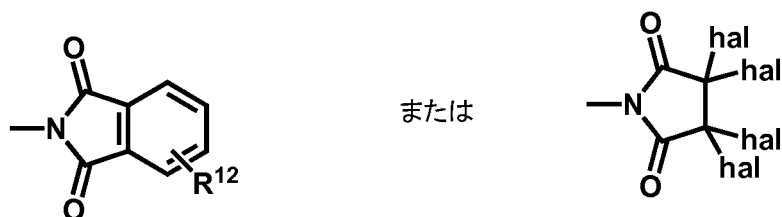
R³は、C₁～C₆アルキルまたはC₅～C₆シクロアルキルまたはC₅～C₆アリールであり

R⁴、R⁵、R⁶、R⁷、R⁸、R⁹、R¹⁰、R¹¹はそれぞれ独立して、水素、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆ペルハロゲン化アルキル、またはC₅～C₆アリールであり、R⁹、R¹⁰、R¹¹は複素環を形成し得、

X¹は陰イオン、すなわちハロゲン、テトラフルオロホウ酸イオン([BF₄]⁻)、[テトラキス(3,5-ビス(トリフルオロメチル)フェニル)ホウ酸イオン]([BArF]⁻)、ヘキサフルオロリン酸イオン([PF₆]⁻)、ヘキサフルオロアンチモン酸イオン([SbF₆]⁻)、ヘキサフルオロ砒酸イオン([AsF₆]⁻)、トリフルオロメチルスルホン酸イオン([CF₃]₂N)⁻であり、

R¹およびR²は、それぞれが結合するNおよびCと一緒にあって、次式

【化 4】



[式中、halはハロゲンであり、R¹²は、水素、C₁～C₆アルキルもしくはC₅～C₆シクロアルキル、またはC₅～C₆アリールである]

の複素環を形成し得る]

の化合物。

【請求項 2】

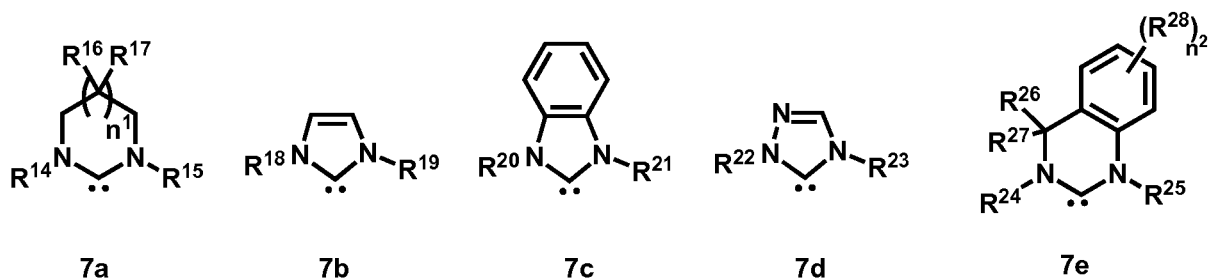
LがP(R¹³)₃[式中、R¹³は、C₁～C₆アルキルもしくはアリールまたはC₅～C₆

シクロアルキルである] であることを特徴とする、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

L が、式 7 a、7 b、7 c、7 d または 7 e

【化 5】



[式中、

n^1 は 0、1、2、3 であり、

R^{14} 、 R^{15} 、 R^{16} 、 R^{17} 、 R^{18} 、 R^{19} 、 R^{20} 、 R^{21} 、 R^{22} 、 R^{23} 、 R^{24} 、 R^{25} 、 R^{26} 、 R^{27} 、 R^{28} はそれぞれ独立して、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_3 \sim C_{20}$ シクロアルキル、 $C_2 \sim C_{20}$ アルケニル、ナフチル、アントラセンまたはフェニルであり、前記フェニルは、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシおよびハロゲンの中から選択される最高 5 つの群から置換され得、 R^{16} および R^{17} ならびに R^{26} および R^{27} は、3 員、4 員、5 員、6 員、7 員の環を形成し得、 R^{28} は独立して、連結した 6 員の芳香族環を形成し得る]

の配位子であることを特徴とする、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 4】

L が PCy_3 であり、Cy がシクロヘキシルであるか、あるいは L が式 7 a または 7 b の配位子であり、

X が塩素であり、

X' が塩素である

ことを特徴とする、請求項 2 または 3 に記載の化合物。

【請求項 5】

式 (I) [式中、 R^1 は CF_3 、 C_6F_5 、 $pNO_2C_6H_4$ からなる群から選択される] に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

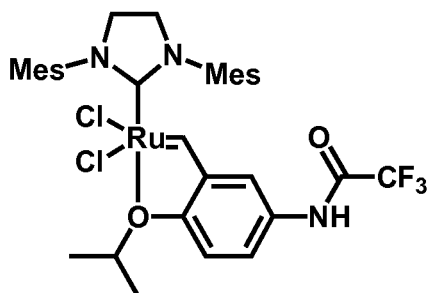
【請求項 6】

式 (I) [式中、 R^1 は CF_3 である] に対応することを特徴とする、請求項 5 に記載の化合物。

【請求項 7】

式 1 b

【化 6】

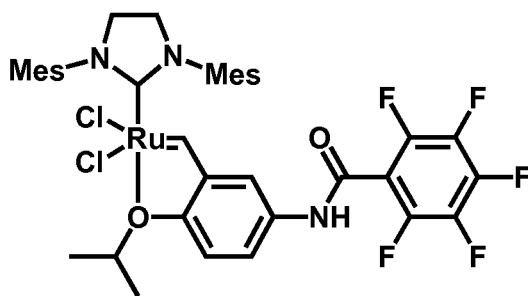


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 8】

式 1 c

【化 7】

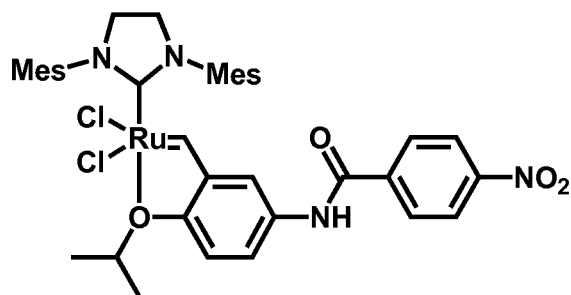


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 9】

式 1 d

【化 8】

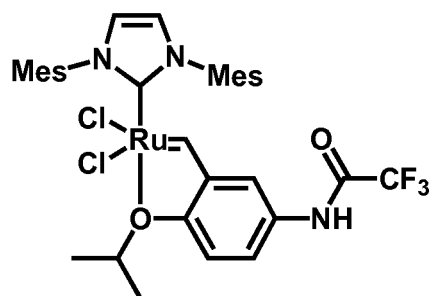


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 10】

式 1 e

【化 9】

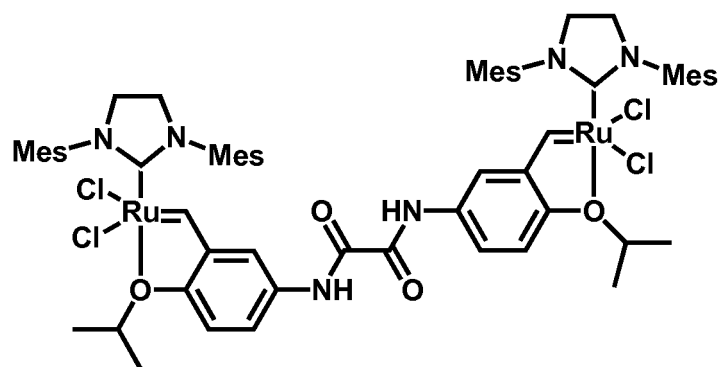


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 11】

式 1 f

【化 1 0】

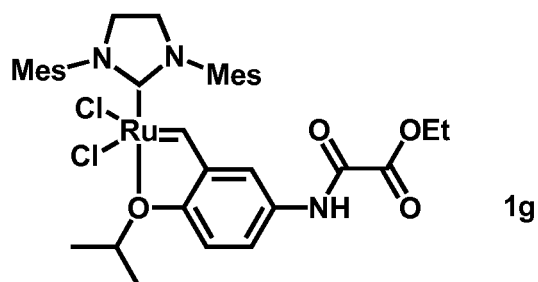


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 2】

式 1 g

【化 1 1】

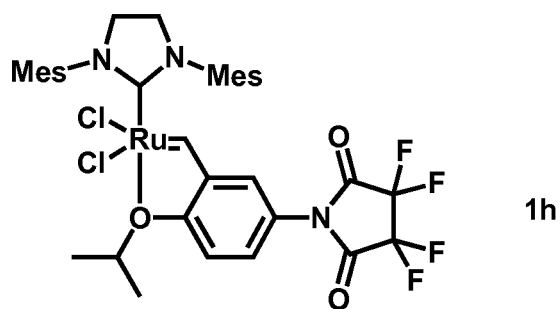


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 3】

式 1 h

【化 1 2】

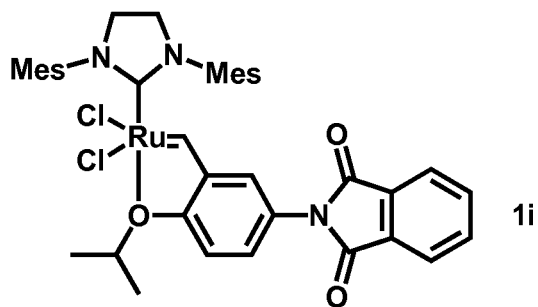


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 4】

式 1 i

【化 1 3】

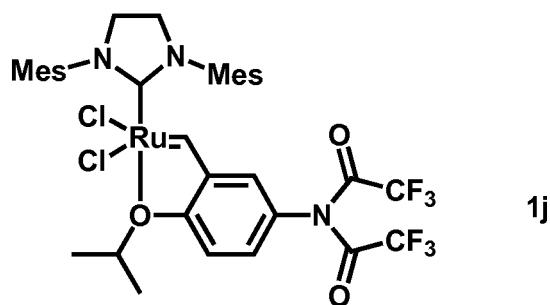


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 5】

式 1 j

【化 1 4】

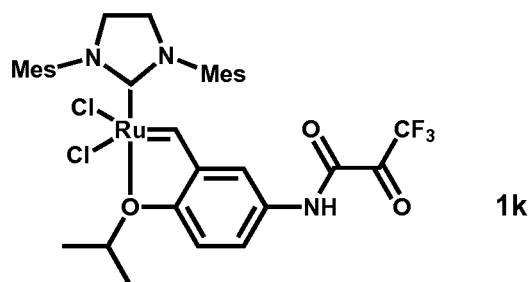


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 6】

式 1 k

【化 1 5】

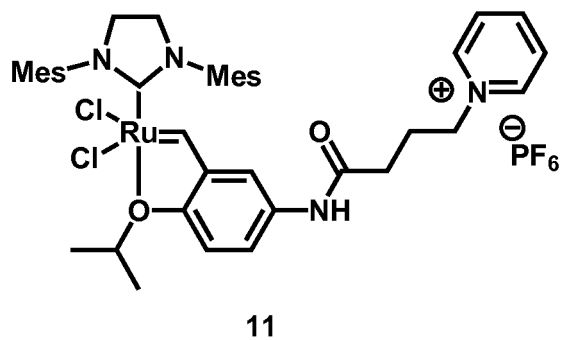


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 7】

式 1 1

【化 1 6】

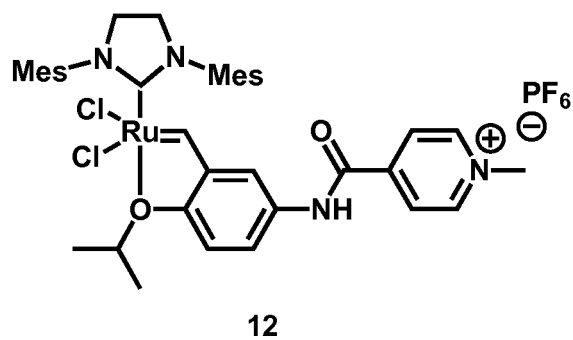


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 8】

式 1 2

【化 1 7】

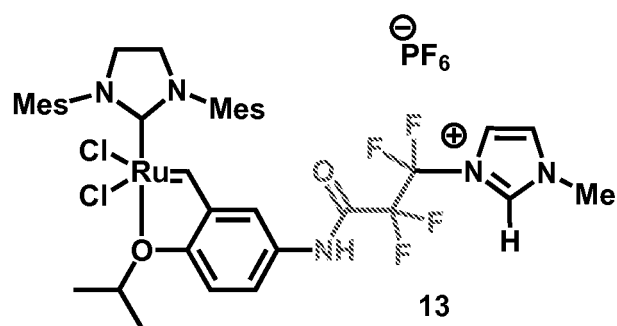


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 1 9】

式 1 3

【化 1 8】

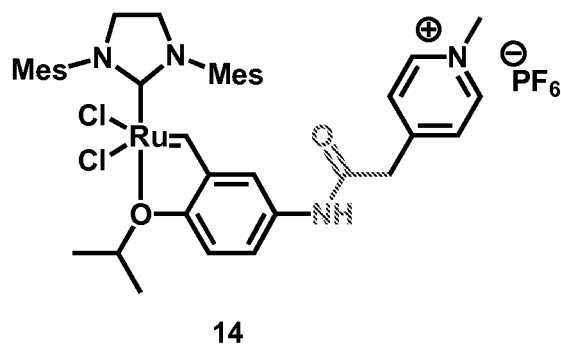


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 2 0】

式 1 4

【化 19】

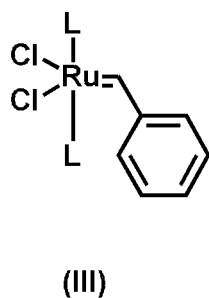


に対応することを特徴とする、請求項 4 に記載の化合物。

【請求項 21】

請求項 1 から 20 までのいずれか 1 項に記載の化合物の合成方法であって、4-イソプロポキシ-3-ビニルアニリンとアシル基を有する化合物とを反応させてアミド配位子を得る第 1 段階と、前記アミド配位子を式 (III)

【化 20】



の化合物と反応させる第 2 段階とからなることを特徴とする方法。

【請求項 22】

式 (III) の前記化合物が、グラブス予備触媒 (2b) またはノラン予備触媒 (2c) であることを特徴とする、請求項 21 に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

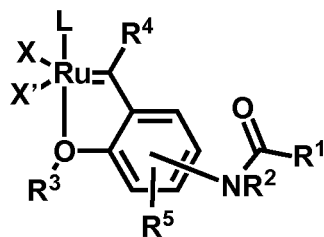
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

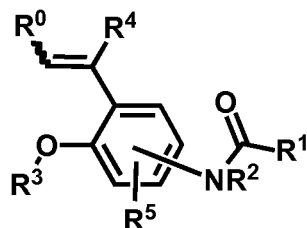
【0022】

本発明により達成されるこれらの目的は、式 (I) または (II)

【化 4】



(I)



(II)

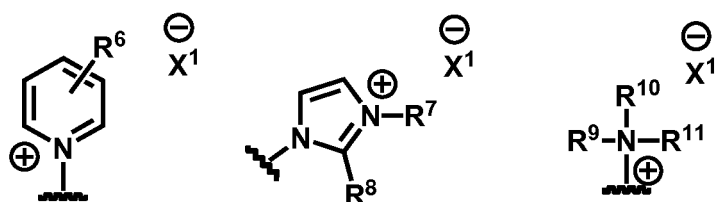
[式中、

L は中性配位子であり、

X、X' は陰イオン配位子であり、

R¹およびR²はそれぞれ独立して、水素、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆ペルハロゲン化アルキル、アルデヒド、ケトン、エステル、アミド、ニトリル、場合により置換されるアリール、アルキルピリジニウム、ペルハロゲン化アルキルピリジニウムもしくは場合により置換されるC₅～C₆シクロヘキシル、C_nH_{2n}YもしくはC_nF_{2n}Y基 [式中、n は 1 ～ 6 からなり、Y はイオンマーカ― または次式：

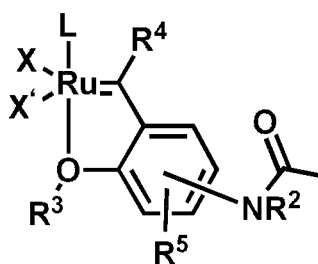
【化 5】



の基であり]、

化合物が式 (I) である場合は、R¹が式 (I b i s)

【化 6】

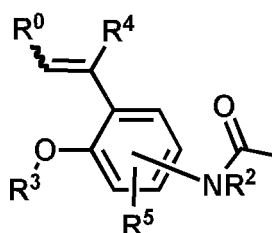


(Ibis)

の基であり得、

あるいは化合物が式 (I I) である場合は、 R^1 が式 (I I b i s)

【化 7】



(IIbis)

の基であり得、

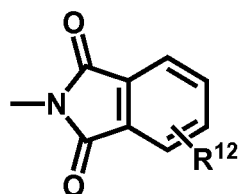
R^3 は、 $C_1 \sim C_6$ アルキルまたは $C_5 \sim C_6$ シクロアルキルまたは $C_5 \sim C_6$ アリールであり

、 R^0 、 R^4 、 R^5 、 R^6 、 R^7 、 R^8 、 R^9 、 R^{10} 、 R^{11} はそれぞれ独立して、水素、 $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_1 \sim C_6$ ペルハロゲン化アルキル、または $C_5 \sim C_6$ アリールであり、 R^9 、 R^{10} 、 R^{11} は複素環を形成し得、

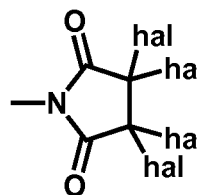
X^1 は陰イオン、すなわちハロゲン、テトラフルオロホウ酸イオン ($[BF_4]^-$)、[テトラキス - (3 , 5 - ビス - (トリフルオロメチル) - フェニル) ホウ酸イオン] ($[BARF]^-$)、ヘキサフルオロリン酸イオン ($[PF_6]^-$)、ヘキサフルオロアンチモン酸イオン ($[SbF_6]^-$)、ヘキサフルオロ砒酸イオン ($[AsF_6]^-$)、トリフルオロメチルスルホン酸イオン ($[CF_3]_2N^-$) であり、

R^1 および R^2 は、それぞれが結合する N および C と一緒になって、次式

【化 8】



または



[式中、h a l はハロゲンであり、 R^{12} は、水素、 $C_1 \sim C_6$ アルキルもしくは $C_5 \sim C_6$ シクロアルキル、または $C_5 \sim C_6$ アリールである]

の複素環を形成し得る]

のすべての化合物に関する。